タウン タウン 小麦

特定非営利活動法人
発　行　くまがや小麦の会
発行責任者　日向美津江
ホームページアドレス
http://www.kumagayakomuginokai.jp/
くまがや小麦の会　検索

認定 NPO 法人
くまがや小麦の会
since 2006
事務局　〒360-0801　埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 20

ひと彩々

熊谷地域の農業とその未来に向けて

ＪＡくまがや代表理事組合長の吉田公一さん(左)と代表理事専務の龍前普さん(右)

ＪＡくまがや（くまがや農業協同組合）

代表理事組合長　よしだ　こういち
吉田 公一さん

昭和３０年５月１７日、熊谷市生まれ
農業協同組合職員を経て、平成２３年６月、農協企画管理・経済担当常務理事を歴任し、平成２９年６月、代表理事組合長に就任。

代表理事専務　りゅうまえ　ひろし
龍前 普さん

昭和２７年２月１４日、熊谷市生まれ
農業協同組合職員を経て、平成２３年６月、農協理事を歴任し、平成２９年６月、代表理事専務に就任

今日、農業の現状と将来についての様々な情報が行き交っている。それはＴＰＰの農業分野交渉をはじめとした国際的な動向の中で、いかに日本の農業が活路を見出していくのか、後継者育成に対してどのような政策が求められているのか、それぞれが大きなテーマとなっている。

こうした国内の農業生産などの状況を踏まえながら、本年６月に就任したＪＡくまがやのトップ２人にお話を聞いた。

吉田組合長と龍前専務とくまがや小麦の会との関わりは深く、約７年前、当時の担当者として熊谷産業祭への出店を後押ししてくれた存在でもある。

● 熊谷小麦の歴史と現状

吉田組合長は、熊谷の小麦生産の歴史について「麦王と呼ばれた権田愛三の偉業と、熊谷の自然環境、そして麦の成長にとり冬の赤城おろしが果たす意味が大きい」と説明する。

加えて、現在の麦作の現状について「『農林61号』からの代替として生産が広がる『さとのそら』『あやひかり』などの収量増加と品質向上が生産者の収入増加につながる。品質のランクにも配慮しながらの生産サポートが必要となる」と語る。

龍前専務は「現在、組合員の生産者は年齢構成としても高くなり、将来に向けた取り組みや、熊谷小麦を次世代につなげる方策も考えたい」と現状を見つめながら、ＪＡの事業推進の可能性を模索する。

● 小麦生産の国際情勢

現在の国際情勢について、吉田組合長は「ＴＰＰの地域間連携が求められる国際動向の中で、国内生産の縮図が熊谷にもある」と語る。そして、自由貿易協定の枠組みの中でも安価な輸入品が増加し、国内生産の意識づけと成果が低下している現状を踏まえ、「熊谷においても作付け面積の維持は、これまでの長きにわたる積み重ねによるもので、今後においても生産調整や補助制度などを総合的に勘案した官民連携が求められる」と分析している。

龍前専務は「アメリカやカナダ、オーストラリアなどから大量に輸入された小麦は質的にも国内消費の需要に合うとして重宝されている。このような中でも地域的、歴史的に引き継がれてきた熊谷小麦を多くの方々に再認識してほしい」と語る。

● 生産者の社会的使命

麦作に限らず稲作や一般的な野菜生産が岐路に立たされる中、ＪＡと生産者が協力して熊谷の農業を支えていこうという精神は今も変わらずに息づいている。吉田組合長は「農業の将来は大変だという意見はよく耳にする。それでも日々、田畑に出向き地道に仕事をしている生産者がいるからこそ、現在の熊谷の地域性である農業が保たれている。生産者の多くは農業を社会的使命として取り組んでいる」と讃える。

こうした社会的使命を将来の農業に結び付けるためにいかなる政策が可能か。行政と生産者との歩調を合わせながら、ＪＡくまがやの存在意義が高まりを見せている。（Ｙ）

熊谷小麦の改良―埼玉２７号―
権田愛三の麦作革新後、野村盛久（1888－1941）は、大正９年に愛三が設置に向けて尽力した埼玉県立農事試験場に着任後、小麦の品種改良に取り組んだ。特に、昭和８年に生み出した小麦「埼玉27号」は、品種・収量ともに高く評価され、広く全国に普及した。大粒であり良質の麦であり製粉歩合が高いため、製粉業界に歓迎されたと言われている。戦前には栽培面積全国第１位となり、主要品種として多用された。熊谷市久保島の水田農業研究所の正門前には野村氏の顕彰碑が建立されている。（Ｙ）

麦笛

自分の為だけに行わない効用

日向美津江

◆仏教用語に「自利利他」という言葉が有ります。修業を自分の利益にだけ留め、他に出さない事を自利とし、次の人の利益に役立つように自分の行った修業を他の人のために役立たせる事を利他とし、この両方を行えることが仏の悟りとされているようです。確かに誰しも自分は可愛いし、自分の利益は確保したい物ですが、自分のいる場所は自分だけで成り立っていません。周りの人たちがいて立場が与えられています。

◆世の中の長は、情報も早く入りますから、自利に走りやすい環境は一般大衆に比べて多いと考えられます。ここで長の人間性が発揮されて参ります。情報を駆使し、自分の動かせる資材、時間軸を蓄積したマンパワーで動かして行く際、自利だけに走らず、周りの環境を生かしてゆく利他の精神を持った長の行動は説得力に満ち、与えられた情報が他との協働に繋がる可能性をも生みます。

◆昔の長は自利利他の精神が備わっていた割合が多かったように思われます。分け与えていました。自分と係る人たちの状況を思い描く心が有ったのです。現在の長の中には、周りの環境を気遣える精神が欠落しているので、気が付けないのだと、思い至らざるを得ない場合に遭遇します。年を取ったのだと諦めたくありませんが、これが果たして正しいのか自信はありません。相手に無いものを求める事ですので、精神的に疲れます。勿論、現在の長の大多数は素晴らしい自利利他を実践しておられます。

◆そこで表題に掲げさせていただきました「自分の為だけに行わない効用」が有るという訳です。自利利他の行動は他人の為になることをしていれば、やがて自分にも利益が回ってくると言っているのではなく、自利利他の行動そのものが自分なのだと考えます。

小麦の会 活動報告

9/16(土) 大宮アルディージャ

販売の集合時から曇天の中、ガンバ大阪戦が熊谷文化公園サッカー場で開催されました。販売時間の厳守が14：00です。来場者はお昼のパンが欲しいのですが販売が出来ません。之には苦労しました。優先入場の１６：１５頃からお客様が殺到し、列を作って御買い上げ頂きました。小麦の会販売所も運動部状態でした。(H)

10/3(火) 明神市

鎮守の森での販売は清々しい空気が流れます。同じものを販売するのに高城神社の境内は清々しいのです。
御団子やさん、リサイクルショップも店を連ねます。小麦の会の活動に興味を持たれている市民の方の訪問が有ったり秋の一日を氏子として地域に溶け込みました。(H)

10/15(日) 第10回ニャオざねまつり　彩の国くまがやドーム

第10回という節目の今回は雨天でしたが、幸運なことに初めての屋内開催で、主役のニャオざねをはじめとした近隣キャラクター達も天気の心配をすることなく会場を賑わしていました。また観客席や出店ブースがステージを見下ろす形でしたので、私たちも楽しませていただきました。涼しい日だった為、さすがにソフトクリームの売り上げはいまひとつでした。(N・T)

11/18～19(土～日) 熊谷市産業祭

1日目夜の強風により会場のテント等に被害が出て、2日目は準備に手間取りましたが、同時開催のうどんサミットの影響もあり、会場は沢山のお客様で大賑わいでした。お買得の熊谷産中力粉「さとのそら」は完売。きなこパンも好評でした。ソフトクリームは行列が出来て、販売にあたってくださった埼玉福興の皆さんが大活躍でした。(R)

イベント出店予定

11月
29日(水)　熊谷特別支援学校
　出張バウンドケーキ講習会
12月
17日(日)　第9回ベアリス30㎞ IN 熊谷・立正大学
25日(月)　雀幸園クリスマス会
3月
18日(日)　熊谷さくらマラソン

■ 会員募集
賛助会員年会費 10,000円　一般会員年会費 一口1,000円
お申込み:TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

次号のお届けは2018年3月の予定です。
編集室　TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

あの町この店

NewDays 籠原1号

マネージャー
光明京子さん
（右：熊谷店 店長 江守睦さん）

〒360-0841 熊谷市新堀 713 JR 籠原駅改札外
電　話　048-530-6385
営業時間　平　日：5時 30 分～ 23 時
　土日祝：6時～ 22 時
定 休 日　無休

通勤通学の利用者を中心に毎日「人」で溢れるＪＲ線の駅、その構内にあり大変重宝するのが、コンパクトな空間に多種多様な品が揃う駅のコンビニＮｅｗＤａｙｓ。誰しも小腹がすいた時や、慌てて家を飛び出し忘れ物をした時などに、通り掛かりに手早く買い物を済ませホッとした経験があるでしょう。

籠原駅改札外の店舗で店長に当たる「マネージャー」を務める光明さんは勤続32年。売店がコンビニ化・レジ会計化する前の、駅ホーム内キオスクでのワンオペ時代も経験している大ベテランで、近隣16店舗を統括する立場の江守さんとお話の呼吸もピッタリです。これまで高崎・浦和・大宮などの売場を歴任され、今年２月より籠原勤務となりました。スタッフ教育から商品・金銭の管理まで幅広い業務を任され、約２千ものアイテムを把握しつつ、お客様の動向をよく見て在庫管理や配置を考えます。売れ筋はおにぎり等の手軽な食品、土日は五家宝や小麦の会サブレ（H22年より、くまサブレ・あつべえサブレ・ニャオざねサブレを店頭の棚でご販売頂いております）等の地域土産もよく出るそうです。

籠原駅は始発列車が出る重要拠点、花園や太田方面から来られる駅利用者も多いとの事です。お店は「籠原止まり」の時間調整に重宝される一方、朝９時頃までが最も忙しく、お客様もお急ぎなので、繁忙時間は３人体制でスピーディな対応を心掛けているそう。こうした努力が、我々の快い電車旅をさりげなくサポートしてくれています。（Ｎ・Ｔ）

文化財で街おこし　星宮の歴史

熊谷市の東部に位置し行田市と隣接する星宮地区。星宮には下川上の愛染堂・愛染明王や、池上の古宮神社で継承されている獅子舞など、地域を象徴する文化遺産が残されている。星宮の歴史を紐解くと、戦国時代以降は忍藩に所在し、星川の流れを生かした稲作をはじめ麦作や養蚕などの農業が広く行われていた。

近代に入り明治22年には、池上、下川上、上池守、下池守、皿尾、中里、小敷田の７ヵ村が合併し星宮村となった。昭和30年７月20日、町村合併促進法に基づく合併協議により行田市に編入したが、同年10月１日には池上、下川上が熊谷市に分離合併した。

「星宮」の名称については諸説あり、７ヵ村合併の際、「北斗妙見信仰」（北極星・北辰への信仰）から、７つの村を北斗七星に見立てたことによって命名されたとの説や、その他、村内に数多くのお宮が星のごとく所在していたのでこの地名が生まれたとの説がある。現在では、村内を流れる星川と古宮の地名（神社・水路など）の星と「宮の名から「星宮」としたとの伝承が有力説とされている。

（熊谷市立江南文化財センター　山下祐樹）

星宮地区を流れる星川（台風一過の様子）

熊谷の道端から ～ゆるゆる散歩雑記帳～

大里地域の石垣

旧大里町エリアを散策していると、盛土で高くした屋敷の外周に石垣を設けた家がとても多い事に気付く。特に荒川に近い区域に密集して見受けられ、土手から数百ｍ離れるとその数はぐっと減る。大里は嘗て何度も荒川氾濫の被害に遭っていると聞くので、水害対策として普及した文化であろう事は容易に想像がつくが、石垣は趣きある景観として目を和ませてくれる。よく見ると石の質や積み方・色合い・高さなどが様々で、各々が個性を醸し出しながらも土地にしっくり馴染み、生活の場に溶け込んだアートのようにも思えてくる。（Ｎ・Ｔ）